

甲斐市「郷育の日」制定を求める意見書

近年、少子・高齢化、核家族化、国際化や情報化の進展等、社会構造の変遷にともない、子どもたちをとりまく環境も急速に変化しています。かつて家庭や地域で日常的に行われていた体験による学びの機会が失われ、現在、いじめや不登校、非行などの問題に対して、子どもたちに自己責任の観念や道徳・倫理観、思いやりを備えた豊かな心を育むことが求められています。

家族や地域においても世代をつなぎ、受け継がれてきた伝統・文化、そして子育てに関する知恵や経験の伝承が途切れ、隣近所同士での共有も難しくなり、家族の中でも食事の時間がまちまちで、団欒の機会が減少しているともいわれている中で、子どもたちはその生活体験の少なさから、善悪の判断や人を思いやる心などの基本的な生活習慣が十分身につかない、また、他人との人間関係がうまく保てない子どもが増加しています。この家庭教育と地域教育の現状は、子どもの問題であると同時に大人の問題でもあることを、しっかり認識しなければなりません。

現在、家庭の教育力が低下しているとして様々な問題が指摘されています。しかし、その原因は家庭の中だけにあるのではなく、地域や社会全体など、子どもや家庭を取りまく環境に起因するものもあると考えられます。そこで、地域社会に教育の重要性や道徳・倫理の大切さを訴えかけることにより、これらの問題を解決していければと考えます。

それには、「教育環境都市の創造」を掲げ、我々が住まう地域を教育環境都市へと変ぼうさせるべく運動展開を行う必要があります。教育環境都市とは、まず、良い教育が受けられる「まち」、そして、その良い教育から生まれる良い「まち」へと循環させることのできる教育環境を定義づけ、この「まち」に住んでいるだけで親から子へ、大人から子どもへ、地域社会全体で良い教育環境が継承できる「まち」を考えております。

このような中で、子どもたちの人間性や社会性を豊かに育むためには、学校だけで取り組むのではなく、市民をはじめとして、家庭、学校、地域、行政、民間団体、NPO、企業といった各主体が連携して、子どもを見守り、子どもを育み支える環境をつくっていく必要があります。

甲斐市「郷育の日」を制定し、それをきっかけとして、学校、家庭、地域の市内全域で教育について考え、そして様々な形で教育に関心をもち関わっていただき、市民総参加で教育に取り組むべきであります。

以上、教育環境都市への第一歩として、甲斐市「郷育の日」の制定を強く望むところでございます。

以上、意見書を提出します。

平成20年9月19日

山梨県甲斐市議会

提出先

甲斐市長 甲斐市教育委員会委員長